ノーサイド

北原巌男

勝手に体験的新隊員声援
勇気を出して声をかけてください！

そんな桜たちの祝福を受けるようにして全国の防衛省・自衛隊の門をくぐられたのが、新自衛隊員の皆さんです。自衛官・事務官・技官・教官等の違いはあっても、等しく常に国民と共に在る国民の自衛隊の若き自衛隊員として、「服務の宣誓」を行い、国民の負託に応えて行く皆さんです。

全国の自衛隊員・ご家族の皆さん、本紙読者の皆さんをはじめ、日本国民は、それぞれ折々に、人生の節目に、どこかで桜に接して来ています。今を盛りと咲き誇る満開の桜に圧倒されるとき、桜吹雪となって次々と散り行くひとひらの花びらが手に触れるとき、えも言われぬ感動や思いが湧き上がって来ます。全国民の皆さんにもご覧いただきたいと思いました。）

津々浦々、桜は、いつも私達の身近にあって最も愛されている不思議な花ではないでしょうか。

映画「宣誓」が取り上げている東日本大震災を始め、頻発する各種大規模自然災害への迅速かつ的確な対応、被災者の皆さんに寄り添う対応が防衛省・自衛隊には一段と求められています。そして目を外に転ずれば、これまでにない厳しさと複雑さを増している国際軍事情勢。ロシアのウクライナ侵略、一方的な現状変更を目論む中国の覇権主義的行動、台湾問題、核・ミサイル開発に邁進する北朝鮮、そしてイランがあります。

こうした中に在って、我が国は、防衛力の抜本的強化を急いでいます。

しかし、そんな我が国が直面している最大の問題は少子化です。歯止めがかからないどころか加速度的に進んでおり、若年人口は減る一途です。今や年間の出生数は僅か70万人さえも切っています。防衛力の最も重要な根幹が人であることは、論を待ちません。危機的な状況に陥っている防衛力の人的基盤。大変困難な、しかし一刻を争う大問題です。

こうした中で、新たに自衛隊員になられた皆さんです。一人ひとりが将来の防衛省・自衛隊を担う、正にかけがえの無い若き人材です。

しかし、これまでの学生時代やご両親等の無尽の愛情や庇護に包まれた環境とは一変します。

もちろん、これから皆さんは、幾多の楽しいこと、嬉しいこと、ワクワクしたり幸せを感じること、人生意気に感じること、自衛隊員としてのやりがいや誇りを感じる瞬間にも出会います。

他方、苦しいこと、辛いこと、絶望することなどにも直面します。でも、そうした厳しい体験は、あなただけに限ったことでは決してないことを知っておいて頂きたいのです。上司や先輩も経験して来たり、体験しています。

筆者もそうです。そういうものなのだということを忘れないでいて欲しいのです。

老婆心ながら、新隊員の皆さんにこれから申し上げることは、一自衛隊OBの筆者自身の体験です。

抱いていた夢や希望とのギャップに落胆されたり、大きな違和感を覚え、緊張と不安で心身ともに疲れてしまい、体調を崩すこともあるかもしれません。更に、自信を失い、自分を信じられなくなることもあるかもしれません。毎日の通勤が辛くなることもあるかもしれません。（筆者は、急性十二指腸潰瘍になりました。朝、駅のホームのベンチにしばらく座ったままだったことが時々ありました。「・・・しょうがないな。ケセラセラ（Whatever will be, will be）だ。行くか。よし！」と自分に言い聞かせ、奮い立たせて腰を上げたことも、一度や二度ではありません。ケセラセラは、心に秘めた魔法の言葉でした。）

知らない人たちばかりに囲まれ、とっつきにくく孤独感や自分の殻に引きこもりたくなるような気持ちが続くこともあるかもしれません。（ある時、筆者は人生の先輩から言われました。勇気を出して、思い切って自分から話しかけてみてごらん。自分から話しかけたときに自分が傷つくではないかと怯えていた筆者。立ちふさがる大きな壁を超えるのは自分には容易でない気持でした。・・・でも、勇気を出して声をかけてよかったです。そして、意外にも相手が自分に心を開いてくれることも感じたのです。気持ちが楽になった気がしました。）

3月9日、筆者は高校時代のクラスメイトが20年前に創立し学園長を務める通信制の「さくら国際高等学校東京校」の卒業式に参加しました。それぞれの道に向かって巣立って行く卒業生の皆さんが全員で歌ったのは、Mrs. Greenの「Appleの僕のこと」。こんなくだりがあります。

（筆者抜粋）

僕と君とで何が違う？
おんなじ生き物さ分かってる
でもね僕は何かに怯えている
みんなもそうならいいな
（中略）
僕と君とで何が違う？
それぞれ見てきた景色がある
僕は僕としていまを生きてゆく
とても愛しい事だ

歩き始めた新隊員の皆さんに向けて、一OBが勝手なことを綴って参りました。なにがしかの参考になれば嬉しいです。

北原　巌男（きたはらいわお）　元防衛施設庁長官。元東ティモール大使。現日本東ティモール協会会長。（公社）隊友会理事